

人・自然との交流を通して感謝の心を育もう

安芸高田市立美土里小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 社会奉仕 自然 勤労生産

体験活動場所 三原市青年の家

【学校紹介】

- 平成15年に町内4小学校が統合し、美土里小学校となって以来、小中連携教育と芝生校庭を生かした教育活動に取り組んでいる。
- 校長名：飯田 直美
- 児童数（学級数）：160人（8学級）
- 所在地：広島県安芸高田市美土里町本郷
4535番地の2
- 電話番号：（0826）54-0047
- URL：<http://www.midori-e.hiroshima-c.ed.jp/>



学校外観

【体験活動のねらい】

- 佐木島地域（体験先）の人々との交流や自然体験を通して、自分の身の回りの人々や自然環境に対する感謝の気持ちを育成する。
- 文化や生活が異なる島での自然体験活動を通して、自立性や協調性を養うとともに集団生活におけるルールの大切さを学び、ともに生きようとする態度を育成する。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月上旬	○集団宿泊活動のねらい、テーマの設定 ○資料名「流行おくれ」1-（1）	2	総合的な学習の時間 道徳	学校	担任
6月中旬	○学習テーマ（全体）の設定 ○班別目標及び活動課題の設定	5	総合的な学習の時間 理科・社会	学校	担任
6月下旬	○指導者への依頼文作成 ○資料名「グリーンオアシス」4-（4）	2	国語・道徳	学校	担任
8月	集団宿泊活動（3泊4日） ○交流体験活動 ①鷺浦小学校との交流 ②佐木島地域の方と交流	7	学校行事	鷺浦小学校 佐木島	担任
	○自然体験活動 ①島の自然観察（島めぐり） ②ミニトライアスロン体験 ③海辺の自然観察	12	学校行事	佐木島	外部講師

	○勤労奉仕活動 ①みかんの摘果作業 ②海辺の清掃活動	5	学校行事	佐木島	外部 講師
9月 ～ 10月	○資料名「駄菓子屋の前の歩道」4- (4) ○資料名「ブランコ乗りとピエロ」2- (4) ○資料名「残った仕事」4- (1) ○資料名「イルカの海を守ろう」3- (2) ○資料名「オトちゃんルールはあたりまえのルール」2- (2)	5	道徳	学校	担任
9月 ～ 11月	○テーマ、目標についての評価とまとめ ○成果発表会の計画・資料作成 ※学習発表会でも成果報告 (レポート発表・作品展示)	9	総合的な学習の時間 国語	学校	担任
9月 下旬	○礼状の作成・体験活動の感想文作り	2	総合的な学習の時間 国語	学校	担任

【体験活動の概要】

○鷺浦小学校との交流（交流体験）

佐木島で唯一の小学校である鷺浦小学校の全校児童との交流会を行う。自然環境・学校規模の異なる2校の児童が、それぞれの地域の特色や学校自慢などを交流した。美土里小学校のことがよく分かるようにパワーポイントでプレゼンをしたり、相手校も安芸高田市について調べたことや島のことをクイズにして発表したりした。その後、全員で組体操をするなど触れ合いタイムを設けたことで交流も深まった。



鷺浦小学校との交流会

○海辺の清掃活動・ゴミの仕分け(奉仕活動)

さぎしまボランティアガイドの方と一緒に、宿泊施設前の浜辺や島内の海水浴場の清掃活動を行う。家庭ごみと思われるものや流木など、様々なごみを集め、分別した。1学期に環境問題について学習し、自分たちにできる社会貢献について考えていたため、意欲的に活動することができた。



海辺の清掃活動

○ミニトライアスロン体験

佐木島では、毎年8月にトライアスロンの大会が開催されている。地元出身で、今なお活躍されている福元哲郎さんを講師に招き、「夢」についての話を聞いた後、ミニトライアスロンを指導していただき体験した。

夢を持ち続けることの大切さを話していただいた後に、三種類のスポーツが組み合わさったトライアスロンをやり切り、互いの健闘をたたえ合う場を設定したこと



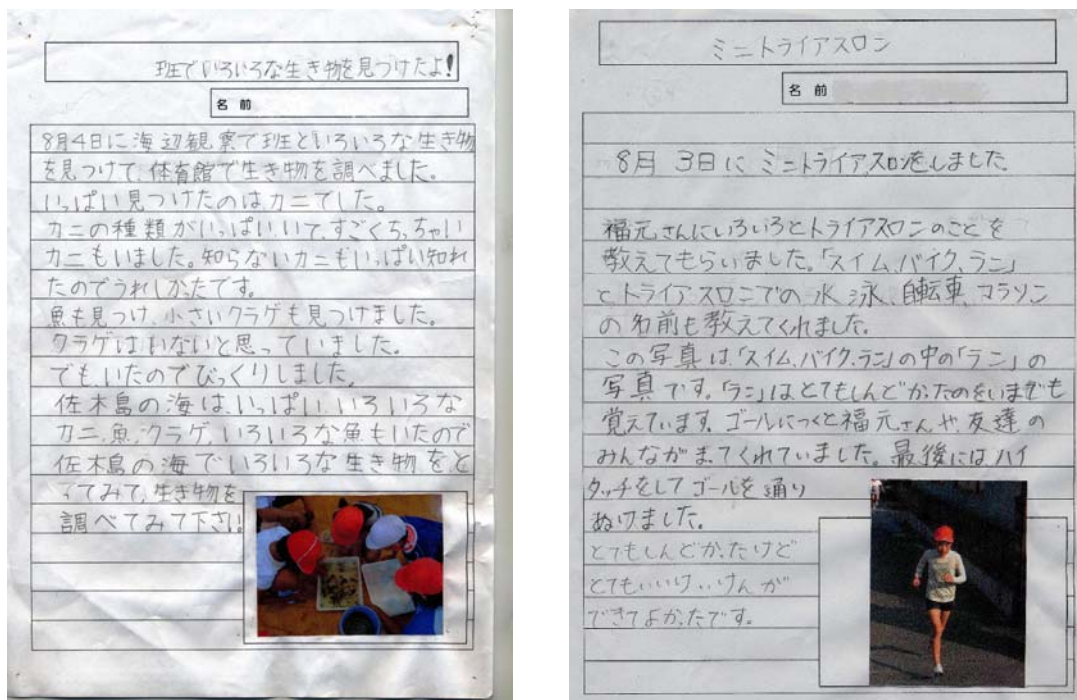
ミニトライアスロン

で、児童の学習意欲・生活意欲を高めることができた。このときの様子は、福元さんのホームページでも紹介していただいた。

【体験活動の効果を高める事後学習】

○総合的な学習の時間

2学期に入り、総合的な学習の時間を使い、体験活動の様子をまとめる。体験活動から1カ月近く経過してからの振り返りとなるため、体験活動のしおりや写真、ビデオ・パンフレットなど、いろいろな資料を使い、活動の様子を想起させた。体験活動を記録した写真の中から、各自「おすすめの一枚」を選び、その写真にコメントを書いた。完成した作品は、参観日や学習発表会で保護者、地域の人たちに発表した。この活動は、以後の調べ学習や夢への意欲につながった。



「おすすめの一枚」(児童作品)

【交流先や施設等との連携】

- 宿泊や交流体験を行う施設には、事前に出向き、より効果的な活動の進め方について協議をし、内容を決定した。また、地域ボランティアとは、活動プログラムや活動時における児童の体調管理についてなど、複数回の連携をした。

【評価の工夫】

- 活動中は毎日振り返りを行い、自分の思いや成長を自覚させるとともに、次の活動への意欲づけとした。体験活動が夏季休業中であったため、帰宅後、夏休み中の課題として感想文を書かせた。体験活動について児童がまとめた作品は、参観日等で保護者に伝え、家庭においても体験活動が話題になるよう工夫をした。体験活動後の児童の変化(成長)についても、保護者から児童に積極的に伝えてもらうよう保護者に依頼した。

【安全面の配慮事項】

- 真夏の活動となるため、事前に各施設や交流先、地域ボランティアとの連携を密にした。また、下見時には、安全上、特に留意が必要な個所を確認した。

活動当日は、猛暑が予想されたため、飲料水の確保や水分補給の回数など、暑さ対策を念入りに行った。他にも、過密日程を避ける、午睡の時間を設ける、屋外の活動は、できるだけ早朝や夕方にかけて設定する等の対策を行った。また、大学生ボランティアに参加を依頼し、児童に目が行き届くよう配慮した。

【体験活動の成果と課題】

- 体験を通じた様々な人々との出会いにより、児童の生活意欲が高まった。

① 自分たちが島を訪れ、一緒に活動することを心から喜んでくださったボランティアグループの人たちとの出会いを通して、児童は、人の優しさを心から感じる事ができた。



「ぼくの夢」(児童作品)

② トライアスロンを指導してくださった福元さんとの出会いでは、「夢を追い続けることの大切さ」を感じ取り、夢に向かって進もうとする意欲が高まった。

③ 事前事後のアンケート調査でも、つぎのような「他者との人間関係づくり」に関わるような項目で大きな変化が見られた。

アンケート項目	事 前	事 後
・だれとでも仲良くできる。	5 5 %	8 5 %
・自分とちがう意見や考えを受け入れることができる。	4 8 %	6 7 %
・自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる。	6 7 %	7 9 %
・相手の立場になって考えることができる。	5 8 %	7 0 %
・腹が立っても、おさえることができる。	3 3 %	5 8 %
・自分で問題点や課題を見つけることができる。	5 2 %	6 4 %

* 数値は「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」と答えた児童の割合

- 児童の中には、自分が暮らす地域への関心が薄いものも多くいる。島での体験を機に、美土里町にも関心が向けられるよう、社会、道徳、総合的な学習の時間の学習活動を工夫していきたい。
- 自分に自信が持てない児童がおり、体験活動で成長した面を、地域の人々との交流等によってさらに確かなものにしたり、互いのよさに気づき、相互に認め合う活動をもっと設定するなどしていきたい。



「みかんの摘果作業」(交流体験)